

## 学科紹介

# 看護学科の「チューター制」を活かして将来の夢をつかもう

看護学科長 教授 やまもと はるえ 山本 春江



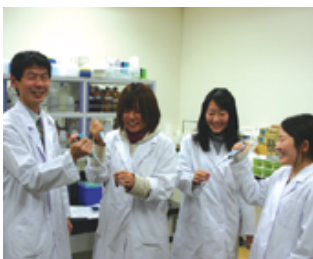
当大学看護学科のオリジナリティでもある「チューター制」についてご紹介します。「チューター制」とは、学生の悩みについて入学時から決まった先生が相談にのるというサポートシステムで、きめ細かい支援と学生の自己啓発を目的としています。

1年生は入学したこと自体の悩みが多いようです。「親が決めた」「学校の先生に勧められた」など、自分で選ばなかったことへの後悔など。2年生になると自分が看護という目標にあっているのかという悩みに。しかしこれが実習が始まる3年生になると、現場の大変さの悩み相談とともに患者とのふれあいの中で得られる喜びややりがいを報告する学生も増えてきます。そして4年生になると、国家試験の対策、自身の就職進路相談へと目標に向かって真剣になっていくようです。また、最近では男子学生の悩みも増えてきております。全国的に看護の世界で男子が増えてきたが、まだまだ職場実習の環境整備ができていないなど。ただこの「チューター制」も自ら進んで相談することが大切です。チューターの先生は決まっていますが、もちろん自分が話しやすいなど、どの先生に相談しても構いません。目標を早くに見つけ、どうすればその目標を到達できるのか一緒に考えていけたらと思います。

当大学看護学科は、看護の実践の場においてもきめ細かい支援を行っています。それを可能にしているのは、県内一と自負している、実践の場に出向いている教員の熱意と実習施設の協力体制です。その中で、学生の皆さんにはこの大学の持っている様々な良いシステムを活用していただき、自分の将来の目標に向かって邁進していただきたいと心より願っております。

## 「大学院はおもしろい」

### ～大学院での専門的な研究～



生活健康科学 教授 いわい くにひさ 岩井 邦久

私は大学院で主に「食品成分の生理機能と生体利用」に関する研究を指導しております。特に青森特産の「アピオス」「ガマズミ」など地域テーマにも力を入れており、地域貢献や事業化も視野に入れながら研究しています。研究とは自らが真理を追求したいという「未知へのチャレンジ」であり、その分野を「極める」ということ。だからこそ結果が出た時は面白く大きな喜びを感じると同時に、仕事にフィードバックされ、地域へも貢献・還元された時は研究者冥利に尽きます。

現在、青森の官公庁や東京の食品メーカーに籍をおく生徒が休みや出張を有効に活用し、一緒に専門的な研究を行っています。私自身、学生時代に研究の面白さに魅せられて大学院へ進学し、終了後に製菓会社へ入社、本学に来る前は県職員も経験しています。ですから、彼らの働きながら学が大変さや研究に対する思いは人一倍理解できるので心から支援しています。一方、働きながら学び研究する姿勢はとても貴重ですが、これから大学に入るあるいは大学から社会へ出て行くみなさんには、大学院で学ぶことが自分の武器になるということを知ってほしいと思っています。特に、将来研究分野や製品開発の仕事を望む場合は、大学院で専門的な知識や研究技術を身につけておくことが、就職時の有利な準備ともなりますので、自らの可能性を広げるためにもぜひ大学院で夢に向かって歩んでもらえればと思います。

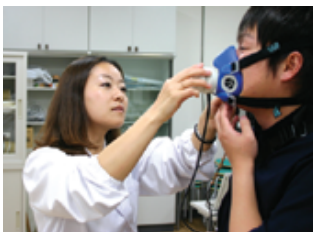
私は主に看護の質や、人材育成をテーマに研究をしています。大学院では看護マネジメント領域を担当し、この領域では看護管理者の育成や看護管理に関する研究者の育成をめざしています。

院生は、キャリア開発、労働環境、保健医療政策、看護ケアの質の評価など、管理に関連した内容について幅広い研究テーマで論文を書いています。院生の多くは仕事を持ちながら社会人として、時間を作って学習と研究を重ねています。青森市内のかたはもちろん、十和田市、三戸町から通っている人もいます。また、遠くは東京、神戸在住の院生もおり、テレビ会議システムを用いた遠隔授業も取り入れています。

修了生は、専門的かつ高度の知識・判断力を持ち、他の人々と協働しながら変革する能力を養い、看護のみならずひろく保健医療の分野でのリーダーとして活躍していけるように支援していきたいと思っています。何事にも日々、好奇心を持って取り組み、管理者、研究者、教育者としてキャリアアップしていくことを期待しています。



看護学 副学長 かみいすみ かずこ 上泉 和子



理学療法学 助手 すごう まいこ 須郷 磨衣子

私は大学院で「運動時の循環動態」をテーマに研究しています。研究内容は持久走をして息があがるタイミング、心拍数など、個人差があるという循環器の動態を研究することで、一人ひとりの適切な運動量を見極め、効率的なリハビリやトレーニングに活かしていくというものです。保健大学の卒業である私は3年間の病院勤務を経て、「診療科にこだわらず、もっと広い視野で知識を習得したい」と思ったことと、教授から誘われたことが後押しとなり、大学院に入学しました。大学院では学内外の様々な方と接する機会が増え、新しい情報がどんどん得られるようになったこともうれしい経験です。学んだ知識を学生に還元することも私の大事な役目だと考えており、教える立場であり、学ぶ立場であることを強く感じます。

最後に学生の皆さんへのメッセージです。どうか食事をきちんと摂ってください。それから身の回りの人を大事にしてください。自分の健康管理と周りの人への思いやりは医療に従事する為に必要な資質ですから。みなさんも是非、大学院で知識や経験を深めてみませんか。

### 【生徒から一言】

みぶ ゆうこ 壬生 夕子

自分の子どもも小学2年になり、やや自分の時間がとれるようになりました。現在勤務している病院でキャリアアップのため、もっと知識研究をと大学院に入りました。現場に活かせる研究をこれからも真剣に取り組んでいきたいと日々頑張っております。

